

地域の高齢者が全世代とつながり、互いに支え合う地域づくり ー一般社団法人えんがおの取り組みを事例としてー

鈴木 未来

厚生労働省が 2015 年 9 月 17 日に発表した「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョン」によれば、共働き世帯の増加や高齢者の増加により、子育てや介護の支援がこれまで以上に必要となる中、核家族化、ひとり親世帯の増加、地域のつながりの希薄化等により、家族内又は地域内の支援力が低下している状況にある。

この課題を解決するためには、高齢者が支えられる、助けられるだけではなく、全世代の人と互いにつながりあい、役割を持って活躍できるような地域コミュニティが求められていると考える。

そこで本研究では、実際に「ごちゃまぜな地域づくり」を実現している栃木県大田原市の「一般社団法人えんがお」を取り上げ、「高齢者が世代間交流をすることでの効果は何か?」、「ごちゃまぜな地域づくりを“運営”していく中で重要なポイントは何か?」について、職員や利用している方々への聞き取り調査と観察を通して明らかにした。

第 1 章では、先行研究レビューとして、地域共生社会の定義、日本の高齢者の現状、世代間交流の効果、地域コミュニティにおける活動運営の重要なポイントについてまとめた。

第 2 章では、「一般社団法人えんがお」の概要と、現地での滞在型調査・聞き取り調査の結果をまとめた。

第 3 章では、先述したリサーチクエスチョン 2 点について考察した。その結果、前者では「高齢者の孤立防止」、「役割が引き出される効果」が、後者では「課題解決の過程で地域の人が新しい役割を担うきっかけを作ること」、「フラットでいること」、「情報を発信すること」がポイントとして明らかとなった。

第 4 章では、研究を進める中で生まれた気づきに基づき、今後筆者も目指している高齢者分野で活躍するソーシャルワーカーの実践の参考になるよう、ソーシャルワーカーの役割として「“違い”に注目し、仲介、代弁的役割を担う」、「地域の人が“気軽”に来る、参加できるような場を作る」の 2 点を提案した。